山形県公立大学法人 教育振興会会報

令和５年度 No. 2
（通巻第178号）
令和６年１月20日発行
〈発行所〉
山形県公立大学法人 教育振興会
〒992-0025 山形県米沢市通町6-15-1
電話 0238（22）7330㈹
FAX 0238（22）7333
〈印刷所〉株式会社 川島印刷

第29回吾妻祭（10月７日㈯～９日㈪）を開催しました！

テーマ「SUNRISE」～コロナという闇夜が明けマスクをつけずに笑い合おう

開会 学長あいさつ

模擬店

茶道部

スムージーカフェ

刺し子体験

新年のご挨拶と近況

山形県立米沢栄養大学
学生部長　金光秀子

新年明けましておめでとうございます。元旦の令和六年能登半島地震では、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

昨年は、五月に新型コロナウイルス感染症が「５類感染症」に位置づけられ、やっと両大学とも通常の大学生活に戻りつつあります。対面授業はもとより、二つの教室での授業を一つの教室での授業に戻し、学生間の距離が近くなったことで協働的な学びも深まっているようです。また、栄養大学の一・二年生では山形の食に関する学外研修を復活させ、三・四年生の病院、施設、保健所等への臨地実習や小中学校への栄養教育実習とその報告会、および卒業研究発表会もほぼ通常どおりに実施することができました。更に、両大学の行事としては大学祭や避難訓練もコロナ前と同様に開催することができました。ここに至るまでの間、教育振興会の皆様には、両大学の教育方針を快く見守りいただき感謝申し上げます。

一方、コロナ禍で培ったこともあります。学生だけでなく教職員も、待った無しのデジタル情報機器の活用を余儀なくされた結果、オンライン授業や遠隔ミーティングの方法を習得できました。これらITの知識や技術は業務の効率化という意味で大変役に立っています。またコロナに限らず、手洗いや換気等の常日頃からの感染予防対策は、健康で生活するための一つの糧となっています。

昨年同様、学生への教育支援、生活支援等に取り組んでまいりますので、今後とも両大学へのご協力、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

せきれい

「思いやり」を辞書で引くと「他人のために気遣ったり同情したりする気持ち」とあります。また、思いやりとは思いを人の心に遣わし、気持ちを察し、理解することという認識や、相手の立場に立つ気遣いであり、利他の精神という解釈もあります。一方、英語のsympathyを辞書でひも解くと、他人の不幸や悲しみに対して同情を寄せることとあり、empathyについては、他人の感情を理解し分かち合う能力という解説になっています。つまり、思いやりにはsympathyとempathyの両方の意味合いが含まれるとも捉えられますが、大きく異なる点は、日本語の思いやりには、相手を気遣い同情し、相手のために良かれと思う自分が察し得るかぎりのことを黙ってしてあげることまでが含まれるのに対し、英語圏のsympathyやempathyは、相手の利を察して行動することではなく、個としての相手を最大限尊重し、自分に何かできることはないか面と向かって尋ねることから始まります。If there is anything I can do for you, please let me know. これは英語圏のお悔やみの言葉に必ずと言ってもよいほど含まれる常套句です。

山形県立米沢女子短期大学
英語英文学科　教授　阿部　隆夫

合格等体験談

就活を経験して

山形県立米沢女子短期大学
英語英文学科　二年　山川未梨乃

本格的に就職活動を始めたのは二年の六月頃です。「地域貢献」という軸で観光業中心に進めていましたが空回りしてしまい、将来への不安と周りが内定をもらっている状況への焦りで、就活に対して消極的になりました。その状況を相談するためキャリア支援センターに通いました。キャリセンの先生方のサポートはとても心強かったです。学内企業説明会でふと気になった業界を聞いたことから視野が広まり、自分がやりたいと思える仕事と出会え、大きな原動力となり、その後は積極的に進むことができました。履歴書の添削と面接練習を徹底的に行い、接客業であるため「会話」を大切にすることを意識し、本番では面接官との面接をやり切りました。

就職活動は不安や焦りを感じることもあると思いますが、周りに流されず、自分を信じて最後まで諦めずに頑張ってください。

挑戦する勇気

山形県立米沢女子短期大学
日本史学科　二年　船木　春奈

私は、入学当初から編入を志望していました。日本美術史に興味を持っていたことから群馬県立女子大学美学美術史学科への編入を考えていましたが、専門の変更は難しいかもしれないと一度諦めました。しかし、自分に正直に、興味分野を学びたいと思い直し、この大学へ挑戦しようと決心しました。二年生の六月から大学の情報収集を本格的に始め、七月にはオープンキャンパスに参加し、群馬県立女子大学の教授と個別相談をしたことにより、今後の進路がより明確になりました。試験のために新聞を読んで小論文を書く力を身につけ、面接練習は特に力を入れました。

編入を通して学んだことは、行動を起こせば誰かが必ず応えてくれること、最後まで諦めないことです。当たり前だと思うかもしれませんが、私は行動することを通して周囲の環境の変化に対し受け入れる勇気が湧いてくることを実感しました。これから編入を目指す皆さん、まずは夢や目標を声に出してみてください。気持ちに変化が起こるはずです。

就活を振り返ってみて

米沢栄養大学 健康栄養学部
健康栄養学科　四年　渡部　朱里

就活をする方へ伝えたいことは、「活動のすべてに無駄なことはない」ということです。就活当初、私は就活への気持ちが乗らず、中々行動に移せませんでした。そんな中受験した会社は不合格でした。振り返ると、この経験があったからこそ、就活に対する姿勢を改め前向きに考え取り組むことができたと思います。毎週キャリセンの先生方と相談を重ね、次第に自分のやりたいことが明確になり、就活に打ち込むことができました。そして、最終的に米沢市役所に内定をいただきました。

就活を始めるにあたり、何をしたいか分からないという方は、まず「誰かに何度も相談すること」をお勧めします。相談を重ねる中で、必ず何かが見つかり、自分の考えがまとまってくるはずです。自分を信じて、行動してみてください。在学生の皆さんの進路が未来につながる事を願っております。

キャリア支援センター便り

キャリア支援センター
エンプロイメントアドバイザー
伊藤喜久子

キャリア支援センターで管理栄養士の就職アドバイザーとして勤務し二年目になります。相談に来る方々から感じることは、自分の将来や管理栄養士の仕事について「よく考えて」きているということ、そしてどの方も迷いながら、不安な思いをしながら就活に取り組んでいることを感じます。そこで私が心がけていることは、就活の疑問や不安、働く分野の相談に耳を傾け、適切に、丁寧に対応し、具体的な職業（職能）イメージを持ってもらえるよう対応していくことです。

昨今の求人は病院や施設、給食委託会社に加え、各科クリニック、保育事業を手掛ける企業、食品会社と多種多様で、管理栄養士に求められる役割や業務の幅も広くなりました。そして、「栄養大学の学生を採用したい・ぜひ来てほしい」は内定者率の高さに表れています。このことは米沢栄養大学を卒業された諸先輩方の努力と業務が評価された結果と考えています。学生のみなさんが、社会人としてデビューし、専門職として仕事をしていく準備に関わる私は、「管理栄養士の卵」を「親鳥の気持ち」で温め、よりよい選択の後に、社会で羽ばたけるように支援していきたいと思います。

OB・OGの話を聞く会を振り返って

山形県立米沢栄養大学　キャリア支援委員会委員長　北林　蒔子

「OB・OGの話を聞く会」の司会をするようになって、数年になります。毎年、私も卒業生の話を聞くのが楽しみになっております。コロナ禍で、ZOOMでの実施も始まってからは、遠く県外で就職している講師の参加も多くなりました。

お話しいただく内容は、希望する企業をどのようにして決めたか、就職試験の勉強方法、面接の準備の仕方、希望進路決定の時期、失敗談やその乗り越え方、後輩に伝えたいこと、大学時代にやっておくべき事柄等です。それぞれの講師が、とてもよくまとめたスライドを用意してくれてお話してくれます。後輩にとっても私にとっても、とても役立つ内容です。終了後のアケートでは、ほとんどの学生が、「参考になった」と答えています。いろいろな刺激を受けたようです。

まだ、卒業して一年も経っていないのですが、とてもしっかりして大人っぽくなり、生き生きとしている姿に感動すら覚えます。後輩の学生は、不安だらけの就職活動に、先輩の話を聞いて、不安は少し払拭され、今何をやるべきかがよく分かったと話していました。全員の参加でなかったのは残念でしたが、今年度は一年生の参加が最も多かった事が、とてもうれしいことでした。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。二〇二四年が皆様にとって佳き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。次号は、今年度最後の号となります。卒業を控えた学生の声と進路状況についてお送りする予定です。（書記）

図書館通信

○開館時間／平日９時～19時
土曜９時30分～16時
○休館日／日曜、国民の祝日、他

本の紹介　日本中世の村について　薗部寿樹

室町や戦国時代の村というと、「惣村」を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし惣村は近畿周辺にしか存在しない特殊な村なのです。一方、西日本や中部地方には「名主座村落」が数多くありました。拙著『中世村落の文書と宮座』（小さ子社）では、名主座村落こそが中世後期の標準的な村だと指摘しました。ただ論文集は一般の方には読みづらいので、ご関心があれば、『日本の村と宮座』（高志書院）を読まれることをお奨めします。

山形県公立大学法人 リサイクル募金

読み終えた本やリサイクル品で募金ができます

山形県公立大学法人 リサイクル募金とは

皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が山形県公立大学法人に寄附される取り組みです。

寄附金は、山形県立米沢栄養大学及び山形県立米沢女子短期大学の学生支援、教育研究活動等に役立てられます。

皆様からのご支援・ご協力をお待ちしております。

※詳しくはホームページをご覧ください。
https://lp.kishapon.com/yone/
（山形県公立大学法人附属図書館　TEL：0238-22-7334）

新任の挨拶

山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部　健康栄養学科
助手　岸　睦朗

四月より米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科の助手として勤務しております、岸睦朗と申します。

私は山形県金山町で生まれ育ち、高校卒業まで山形県で過ごしました。その後、進学等の理由で県外にて生活を送っておりましたが、私を育ててくれた地元山形へ貢献したいという気持ちと、山形の食への恋しさが募り、本年度より山形県へ戻ってまいりました。豊かな山々に囲まれているという好環境のもと、心身ともに健康で充実した毎日を過ごしております。

今年度は主に給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、国家試験対策などの助手を担当いたします。安全面に細心の注意を払い、円滑な実施のサポートに努めて参ります。

学生の皆様が健康で明るく有意義な学生生活を送ることができるように、微力ながら励んで参りますので、保護者の皆様、法人職員の皆様におかれましては、何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

吾妻祭を終えて

第二十九回吾妻祭実行委員会
副実行委員長
国語国文学科Ａ二年　安部　紫音

吾妻祭は米沢女子短期大学、米沢栄養大学、山形大学工学部三校合同の学園祭です。

五月にはコロナウイルスが５類感染症に移行し、飲食や密になることについてこれまでより規制がなくなり、より来場してくださる方々に楽しんでもらえる内容で、吾妻祭（十月七日～九日）の開催が可能となりました。

しかし、準備の段階では予算の減少、準備時間の短縮など、大きな問題があり、前年の経験があるといっても、いざ自分達で作り上げていくとなると考えなければいけないことが山積みでした。中でも今年度は騒音問題を考慮し、舞台配置を考えたり、地域団体との連携、パンフレットの形態の変更など、新しい試みを沢山行ったため、戸惑いも多くありました。苦労しつつも、これまでの吾妻祭には無かったことを実施することで、革新的で目新しい吾妻祭を開催することができ、学生同士の刺激になり大いに盛り上がりました。また卒業生の方に寄付金を募集したり、地域の方に体験教室の依頼をするなど、前年よりも人の繋がりを強く感じ、改めて人との交流を大切に思う機会になりました。

実行委員は、半年以上前から準備を行い、皆一生懸命頑張ってきました。不安な面も沢山ありましたが、無事に吾妻祭（十月七日㈯本学会場）は大成功を収めることが出来ました。吾妻祭に関わってくださった皆様のお陰と感謝いたします。本当にありがとうございました。

県内企業見学バスツアー

特別選抜の入試日で休講となった十一月十六日㈭に県内企業見学バスツアーを行いました。栄大一～三年生九名、短大一年生十二名の参加がありました。

十一時十分松川コミュニティセンターに集合し、両大学合同で日東ベスト㈱山形工場（山形市）にその後、栄大は㈱萬屋薬局（山形市）、短大はＮＤソフトウェア㈱（南陽市）に伺いました。工場・オフィス見学とともに企業概要や業務内容を詳しくお聞きでき、ＯＧとの座談会もあり、身近に「職場のリアル」を感じることができました。

参加学生の感想

●見学できた企業のイメージがかなり変わった。自分の希望業種では無いからと言って選択肢からすぐに除外するのは良くないと思った。（国文一年）

●どの業界に進もうか迷っていたので、今回のツアーに参加できて良かった。迷っているからこそ現場を見ることが大切と感じた。（栄大三年）

公務員インターンシップ

インターンシップを終えて

山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科　一年　八木沼友理

私は市立米沢図書館ナセBAにインターンシップに行きました。一日目に館内の案内や配架の説明、郷土資料の説明をしていただきました。その後、資料配架や書架整理、フィルムコートという本を長く保存していくために重要な図書装備を体験させていただきました。二日目には壁面書庫資料移動と雑誌の除籍作業を体験し、一般の方が入れない場所に行くことができとても貴重な経験となりました。

二日間の日程を終えて、書籍の移動や書架の整理などとても大変な作業でしたが、大きなやりがいを感じました。実際に司書の仕事を体験し、司書の現状や作業を行う上でのチームワークの重要性を学ぶことができました。お忙しい中受け入れてくださった図書館の方々に感謝をしつつ、得たこと、学んだことをこれからに活かしていきたいです。

公務員インターンシップを終えて

山形県立米沢女子短期大学
社会情報学科　一年　村形　遥香

夏休み期間中に山形市役所で五日間インターンシップに参加しました。私は、主に情報企画課の業務を体験しました。庁内のデジタル化を図る「ＤＸ通信」の作成を任せていただき、作成を通してデジタルやＳＮＳに関する自分や自分と同世代の人の感覚と市職員の方々の感覚とのギャップを感じる面が多くあり、非常に良い刺激となりました。

また、実習の中で、市役所各課の業務の専門性の高さや、営利目的ではないこと、対象が市の全住民であることなど業務の難しさを痛感しました。自分のなかでの市役所業務の印象が大きく変わるとても貴重な経験になりました。

お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった山形市役所の皆様に感謝の気持ちを持ち、学んだことを今後に生かしていきたいです。

実習を終えて

臨地実習（病院）を終えて

山形県立米沢栄養大学　健康栄養学部
健康栄養学科　四年　塙　澪

私は七月に、特定医療法人舟山病院で二週間実習をさせていただきました。

厨房実習や多職種連携場面の見学など、多くの経験をさせていただきました。厨房実習では、一人一人異なる食事内容に応じて食事が提供できるよう、栄養士と調理員が連携して食事の準備をしている姿が印象的でした。多職種連携の場面では、患者様により良い治療を提供できるよう、様々な職種の方が意見を出し合い、互いを高めあっている姿が印象的でした。

実習を通して、病院の管理栄養士は、栄養の知識だけではなく、治療に関わる幅広い知識を有していること、スタッフ間の連携が大切なのだと学びました。今後社会人になるにあたって、常に学び続ける姿勢を忘れずに、仲間との連携も大事にしていきたいです。

臨地実習を終えて

山形県立米沢栄養大学
健康栄養学科　渡部　翔太

私は高畠町子育て世代包括支援センター（げんき館）で五日間実習をさせていただきました。現場へ赴くまで、私の中での行政栄養士の役割や業務に明確なイメージがつかなかったため、期待と不安でいっぱいでした。実習では、授業で学んだこと以上の学びと経験を得られました。今回は母子保健事業に関わることが多く、乳児とその保護者の方と触れ合い、これからの食習慣や食事形成するための貴重な瞬間に立ち会うことが出来ました。

実習の中で、様々なライフステージの方々との信頼関係を構築することが栄養相談を進めていくうえで最も重要だと学び、管理栄養士として働くうえで、貴重な経験ができました。

今後、管理栄養士と働き、対象者のみなさんに健康的な食生活を送る為のサポートをしていきたいです。

教育実習を終えて

山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科　二年　松田　爽来

私は教育実習を通して多くのことを学び得ました。中学生に授業を行うことは理論ではないと強く感じました。

事前に模擬授業や教材研究を行い、準備を万全にしていましたが、現場では通用せず実際には毎日多くの工夫を凝らして授業を行いました。特にクラスによって発問への取り組みが大きく異なるため、発問をより具体的にする、身近なものに例えるなどして考えやすくしたり、グループワークを使うタイミングを変えたり、各クラスに合わせて柔軟に授業作りを行いました。授業を作る中で大変なことはもちろん沢山ありましたがそれ以上に生徒と関わる時間は楽しく、実習後教員になりたいという思いがより一層明確なものに変わりました。私の人生を変える貴重な経験になりました。

博物館実習を終えて

山形県立米沢女子短期大学
日本史学科　二年　佐藤ひなの

二年生の八月の約一週間、福島県歴史資料館で博物館実習をさせて頂きました。

実習の中で特に印象に残っていることは、収蔵庫を見学したり、史料の修復・修繕作業を行ったりしたことです。収蔵庫では、耐震・空調の工夫がされていることや、収蔵できるスペースが限られていることから、収蔵する史料の取捨選択を行うことの苦悩を知ることができました。実際に史料の修復・修繕作業では、文書に付いているシミや汚れをとったり、破れた部分を直したりすることを行いました。修復・修繕の作業を間近に見る機会は少ないため、とても貴重な経験になりました。

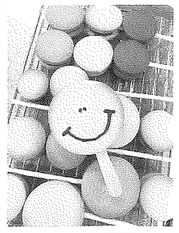
実習を行う前は講義の中で学んだことを活かしていけるか、実習先の皆様にご迷惑をお掛けすることはないかとても不安でしたが、ご指導を頂きながら充実した一週間を過ごすことができました。

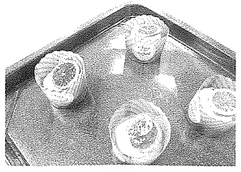
米沢駅前「映えｃａｆ'ｅ」オープンプロジェクトに取り組んでいます

学生が米沢市の良さを知るとともに、地域と連携し、将来的に米沢駅前に若者が集うカフェのオープンにつなげるプロジェクトに五月から取り組んでいます。

これまでフィールドワークやワークショップを積み重ね、カフェのコンセプトや販売するスイーツを考案しています。十月七日に開催された吾妻祭では、串スイーツや、地元の農家の方からいただいた果物や野菜を使ったスムージー、レモンや桃のカップケーキを試作販売し多くの方々に大変好評でした。

十一月十八日には、米沢駅前多目的広場で、カフェを出店し、トマトチャウダー、抹茶おしるこ、クリスマス風ホットココアを試作して販売したところ、大変好評でした。





陸上競技大会に参加して

山形県立米沢女子短期大学　陸上競技部　サークル長
国語国文学科一年　名取　優杏

私は四月から陸上競技部を立ち上げて顧問の比留間先生の下、練習に励んできました。今年は東北インカレ、北日本インカレ、全日本インカレなど様々な大会に出場してきました。その中でも全日本インカレは大学生最高峰の試合です。大学生トップクラスの選手と走ることができた経験は私にたくさんの刺激を与えてくれました。今シーズンは大学受験もあり、全体的に準備不足で試合の感覚も掴みきれない試合が多くありました。そのためこの経験を生かし、また来年も出場できるように準備をしていこうと思い、現在も練習に励んでいます。来シーズンも多くの大会に出場できるように頑張ります。